



語り合う

生命誌の広場

中村桂子の
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを
考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

研究について

コノハムシ

投稿日：2017.09.27 名前：N.Yamashina

橋本さま

(やや旧聞ですが) 以前貴誌(ラボ日記)で「…コノハムシという昆虫は、ジュラ紀の地層にもその化石が見られるということですが、実はジュラ紀に広葉樹は存在しないということ…」という記事を拝見しました(2010)が、最近ネットで「4千7百万年前の堆積物から(出た)コノハムシの最古の化石…」という記述を見かけました('The first fossil leaf insect: 47 million years of specialized cryptic morphology and behavior', "PNAS" January 9, 2007)。「ジュラ紀」は、2億300万年前から1億3500万年前までのこと、「4千7百万年前」とは大分開きがあります。当該文章の主旨は別として、この件に関しての事実はどちらが正しいのでしょうか？

お返事

投稿日：2017.10.06 名前：表現を通して生きものを考えるセクター平川

平素生命誌研究館をご支援いただきましてありがとうございます。表現セクターの平川からお返事申し上げます。季刊「生命誌」86号でコノハムシの紙工作を担当いたしました際にご紹介の論文も含めて、コノハムシの進化について考えました。

ご紹介のPNASの論文は、コノハムシ科に属する昆虫の化石の発見の論文で、4千7百万年前の始新世は、昆虫を餌とする現生の鳥類や哺乳類の多くが現れた時代であり、擬態が進化する環境と言えます。そのころに、現生のコノハムシ科の系統が出現していたことは、生きもの進化と環境の関わりを示している面白い発見です。

一方で、ジュラ紀のコノハムシは、コノハムシを含むナナフシ目の昆虫でコノハムシのような葉状の羽を持っている化石の存在からの推測になります。従って、現生のコノハムシの直接の祖先かどうかまでは、わかりません。しかし、ナナフシ目が環境に応じて、葉のような羽をもつ能力を備えていたことが、現在のコノハムシの出現を裏付けていると考えられます。広葉樹のような植物が出現する以前から持っていたその能力を「前適応」と考えます。

化石は全ての生きものについて見つかるわけではなく、現在の生きものとのつながりも、形態などからの推定になりますが、過去の生きものが、どのような環境でどう生きていたかを含めて考えると生きもの進化の面白さが読み取れるかもしれません。

今後とも、生命誌研究館をよろしく願いいたします。

その他

入院を通しての雑感

投稿日：2017.09.26 ニックネーム：アキオスギ

久しぶりに投稿しました。先日、職場で体調が悪くなり、救急車で地元の赤十字病院へ搬送され、救急病棟に入院しました。検査の結果異常がなく4日間の



新着情報



[10月19日生命誌オープンラボ \(19.10.01\)](#)

[10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会\(19.10.01\)](#)

[昆虫脳の標本展示が登場！\(19.10.01\)](#)

[パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始\(19.10.01\)](#)

[あくあびあ芥川とスタンプラリー開催\(19.10.01\)](#)

入院で退院できました。いろいろなことを考えさせられました。その中で、特にお伝えしたいと思ったことが2つあります。1つ目は、救急病棟の看護師はほとんどが20代と思われる若い方々でした。病院の事情は分かりませんが、救急医療の現場は若い看護師の力で維持されていると感じました。若いゆえに経験不足はあると思いますが、様々な患者の病状や性格などに応じて誠実に対応している姿を目の当たりにし、若者に対する信頼感が増し、未来に希望を感じました。2つ目は、入院中で一番うれしかったことです。尿がたまりなかなか出ずに苦しかったのですが、ようやく出たときにいっしょに喜んでくれた看護師さんの笑顔です。私は現在、小学校で支援員をしていますが、もっともっと子供たちを信頼し、笑顔で励ましていこうと思っています。

お返事

投稿日：2017.09.27 名前：中村桂子館長

不順な気候ですので、体が悲鳴をあげますね。異常がないとのことよかったです。でもお大事になさって下さい。おっしゃる通り看護や介護の場で接する若い方は、明るくて、頼りになりますね。こんな時希望がわくのは同じです。一方で希望を絶つようなことをする方たちもいて……。誠実に明るく生きている人たちが評価される社会であって欲しいです。



研究について

これからも蝶を追いかけます

投稿日：2017.09.20 ニックネーム：ピッピー

星野さま

こんにちは。
ヒントや資料を紹介していただき、ありがとうございました。ツマグロヒョウモンが羽化後に飛び立つシーンは何度か撮影をしていますが、赤い体液が出ることまでは知らなかったのが驚いてしまいました。赤い色は、イヌや猫には見分けがつかないものだ・・ということ、ある生物学の有名な専門家が言われていました。もしそれが本当なら、昆虫に限らずに体色を調べてみたら面白そうですね。

ツマグロヒョウモンは産卵時に、幼虫に適した食草を間違ふことがあります。ドラミングして食草を見分ける様子はなく、地面を歩いて産卵場所を探し、食草の上を歩き回る様子が何度も確認できています。

これからもいろいろな視点から、庭に来る生物を観察してみたいと思います。これからの研究所の皆さんの活動を参考にしたいと思います。楽しみにしています。



季刊「生命誌」

生命誌の樹

投稿日：2017.09.13 名前：山科登

「生命誌の樹」、手間はかかりましたがその分楽しく勉強させて頂きました。大先生もご存じなかったという(?)「分岐」が、視覚的に、文字通り立体的に理解できた(ような気がします)。私らのようにエンゲルスの『自然弁証法』から進化論に入って、「発展段階論」で固まってしまった石頭には、目が開かれた思いです。

これを企画・制作された方々に感謝と敬意を表したいと思います。
ありがとうございました。

お返事

投稿日：2017.09.15 名前：中村桂子館長

とても高く評価して下さってありがとうございます。
中心になって進めている平川美夏が徹底的にデータを調べ、新しい知見を入れて提案してくると、私たちもびっくり。作る側にいる者の特権で最初に楽しませてもらっています。ゲノム解析からのデータは日々出てきますので、「生命誌の樹」も決して不動のものではありません。今、わかっているところから見えてくるものを探り続けていきます。



研究について

蝶の羽化に驚きました！

投稿日：2017.09.12 ニックネーム：ピッピ

生命誌研究館のみなさまへ

いつも生命誌を楽しみに待っています。新しく届いた季刊誌は今日の息子の宿題が終わってからの楽しみにとっておこうと思います。

今日は質問があって投稿しました。

我が家の庭ではツマグロヒョウモンが次々と脱皮、蛹化、羽化を続けています。タチツボスミレは葉が減ってきましたがまだ、メスが産卵にやってきます。そんな中で先日、ツマグロヒョウモンのメスの羽化を確認しました。羽化の進み具合をスマホのタイムラプスで撮影しました。すると、羽化途中に蝶は肛門から赤い液体が3回に分けて落としていました。蝶が飛び立った後に指先で液体に触りますと、さらさらしたものでした。指先が赤く染まるようでした。試しに台所洗剤で指先を洗ってみました赤い色はすぐには落ちませんでした。ヨウシュヤマゴボウほどの強い色でした。

蝶の羽化時に肛門から出る体液は何だったのかが気になります。葉っぱの上に落ちた体液を冷凍保存するべきだったかもしれません。貴館にはこのような生態について研究が進んでいると思います。アドバイスをいただけたらと思います。

お返事

投稿日：2017.09.14 名前：表現を通して生きものを考えるセクター星野

いつも季刊誌を楽しみにしていただきありがとうございます。お庭にツマグロヒョウモンがやってくるんですね。当館の食草園では、今年はまだ見られていませんので、お便りうれしく思いました。

ツマグロヒョウモンなどのチョウは、羽化する時に蛹便や羽化液と呼ばれる体液を排出します。ピッピさんがご覧になった液体はこの体液ではないでしょうか。成虫にとって必要のない体液を排出することで、からだを軽くし飛びやすくなるようです。

当館の「[チョウが食草を見分けるしくみを探るラボ](#)」では、食草とチョウの進化の関係を研究しています。チョウについてご関心がありましたら、ぜひ研究室のページをのぞいてみてください。

季刊「生命誌」

BRH CARD 94号

投稿日：2017.09.07 ニックネーム：相模のラクダ

まず、1ページ目の中村館長様からのお手紙にありました様に、今年の夏は、各地で豪雨となり被害も出て心痛みました。さて、94号の内容ですが、最初の館長と大栗博司カリフォルニア工科大学教授との対談では、超弦理論の9次元も、どこかで生命（誌）の一部に繋がっている様な気持ちになりました。特に、多次元では「ゲノム」も次元数が多いというのも驚きました。次に、江口吾朗名誉教授の「イモリの眼のレンズ再生」のご研究は、退官されても、家の水槽でこの研究を続けられ、レンズは18回以上も再生し、尾や足より再生力があり、現代の「i ps細胞の発見」につながる源流を創られたのが驚きです。そして、他のリサーチやNEWSも興味深い優れた内容でした。毎号楽しみで、貴研究館のご発展を願ってます。

お返事

投稿日：2017.09.08 名前：中村桂子館長

季刊誌の感想ありがとうございます。

つくっている者としては、このような反応をいただくのが一番嬉しいことです。もちろん疑問なども含めて、これからも感想をお願いいたします。また、この場をお借りして他の方にも「ちょっと一言」書き込んで下さるようお願いいたします。



中村桂子の「ちょっと一言」

「十七条憲法」思う

投稿日：2017.09.01 ニックネーム：Teru

東京単身赴任ときは古書店を歩き回りました。
神田はいいのはありますが、高いことも一番でした。
司馬遼太郎さんは全部・・・感じで買われたと聞いておりました・・・
千葉県茂原市で買った聖徳太子集昭和10年非売品を手に入れました。

452ページの最後に「皇太子親筆作」
(こうたいしみずからはじめてつくりたまふ)
一に曰く 和を以て尊しと為し・・・と続きます。
会社の社則(憲法)としてもいいのだと思ってました・・・今年は憲法を変えるのだ
と、意気込んでいる方々に今一度しっかり読んでいただきたいと思います。

お返事

投稿日：2017.09.06 名前：中村桂子館長

和という文字が、和食、和服のように日本を表わすものとして用いられていることを改めて考えたいですね。グローバルというかけ声で、日本の風土が育ててきた和に代表されるよい文化を否定的に見てしまったのが残念です。グローバルこそさまざまな文化がお互い多様性を認め尊重し合いながら和やかに生きる世界づくりのはずですのに。

▲ ページの先頭へ

[サイトのご利用について](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#) | [サイトマップ](#)



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012